

新春

博物館長が語る

穴塚

般若寺の梵鐘



土浦市立博物館長
上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長
茨城大学名誉教授

茂木

雅博

市民の皆さま、新年おめでとうございます。

私が月に1回、市立博物館で開催しております館長講座が昨年12月めでたく100回目を迎えることができました。これもひとえに市民の皆さまのご支援の賜物でございます。毎月楽しみに聞きに来てくださる皆さまに心から感謝しております。

さて皆さま、本市には国宝「短刀 銘 筑州住行弘」を始めとし、国指定の重要文化財が合計11点ございます。今回はその中から常陸三古鐘として有名な般若寺の梵鐘を紹介したいと思います。常陸三古鐘とは茨城県内にある鎌倉時代の優れた銅鐘を指すもので、土浦市には3基中2基が所在します。土浦市穴塚の般若寺・大手町の等覺寺、潮来市の長勝寺がそれで、すべて工芸品として国の重要文化財に指定されています。

私の古い友人に奈良市東大寺の戒壇院^{かいだんいん}前で見つけた日本最大の梵鐘^{ぼんしょう}铸造所跡を発掘調査した研究者がおります。彼はその後梵鐘の铸造法を研究し、古代から中世にかけての梵鐘に関していくつかの論文を発表しています。特に近年は、中世律宗の忍性和尚^{にんしょう}が大和から筑波山麓に止住し、鎌倉の極樂寺に移る以前にこの地で布教を行った事実と、中世律宗が土浦周辺に残した様々な文化財に注目して、何度か土浦市を訪れて調査をしました。般若寺の梵鐘は、結界石や石造五輪塔などとともに、律宗が鎌倉時代に栄えた



▲般若寺境内



▲般若寺梵鐘(国指定重要文化財)

頃の文化的な遺産であり、その梵鐘調査の成果が昨年暮れに公表されたのでご紹介します。

寺伝によると般若寺は、天曆元年(947年)平将門の孫娘如藏尼が尼寺を穴塚の台地上に創建したのを始めとし、平安時代の終わり頃に現在地に遷ったそうです。鎌倉時代になると五重塔を有する大寺院となり、その寺域は旧穴塚小学校を含む広範囲におよんでいたと推定されています。戦国時代には兵火にかかりましたが、幸い梵鐘は今日まで残り、重要な歴史的事実を伝えてくれています。

梵鐘は総高115・2センチメートル、口径62センチメートルを測り、铸造年代などを記した銘文が刻まれています。それによると建治元年(1275年)8月27日とあり、大和西大寺の叡尊の弟子である源海が大勧進となり、北条時宗が元寇による国難を救うために寄進したと寺伝は伝えていきます。

鑄物師は丹治久友と千門重延の2名が連名で刻まれています。千門は地元の鑄物師と推定されます。丹治久友は河内(大阪府)

の鑄物師で、般若寺を含めて4つの梵鐘の製作が知られています。現存するのは穴塚般若寺のほか、埼玉県川越市の養寿院(文應元年・1260年)、奈良県東大寺真言院(文永元年・1264年)があり、銘文の記録のみが残る奈良県吉野金峯山藏王堂(文永元年・1264年)の鐘銘には「鎌倉新大仏寺鑄物師丹治久友」と記されています。この銘文によって、鎌倉大仏の鑄造に加わった丹治久友はその後、川越養寿院の梵鐘を鑄造して、いったん大和に帰国して東大寺と吉野金峯山の梵鐘を製作の後、般若寺の梵鐘を鑄造するために再び土浦にやって来たものと思われます。

この梵鐘は現在、般若寺境内の鐘楼に懸けられています。その銘文は大変鮮明に彫られており判読可能ですので、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。さらに、この寺の境内には、県指定文化財の結界石や石造五輪塔など、鎌倉時代の文化財を見学することもできます。拝観を希望される方は、必ず事前に連絡をして了解を得てから、文化財に損傷を与えないように十分注意して拝観して頂きたいと思っています。

最後になりますが、今年も市立博物館と上高津貝塚では、様々な企画や展示を行います。両館とも、皆さまのご来館をお待ちしております。